

令和5年度 学校経営報告（学校評価報告書）

四條畷市立四條畷小学校

校長 藤原 吉直

1 学校経営方針

【学校教育目標】

「よく考えてやりぬく子 力を合わせてがんばる子 丈夫な体と豊かな心を持つ子」

四條畷市教育振興基本計画の掲げる基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」を本校の理念に据え、積極的に新たな取り組みを実践していく。変化の激しいこれからの社会を生きていくためには、あらゆる人々と共に学び、互いの意見を尊重し、直面する課題に対して、柔軟かつ真摯に対応していく力が求められる。その力の基盤を育成する学校教育において、知「確かな学力」、徳「豊かな心」、体「健やかな体」をバランスよく育て、児童に「生きる力」を育成していきたい。新学習指導要領に準拠した「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、教育の情報化や授業づくりの工夫などに取り組む。

基礎学力の習得は、単に知識を覚えるだけでなく、問題解決能力や発想力、表現力などの能力を養う学びにつながるよう、学習指導や教育方法を工夫する。読書教育や英語教育にも注力する。

児童会活動などの児童が交流する活動を活発にする。すべての児童にとって安全安心な学校づくりを進める。様々な角度から十分な配慮を行い、両校の児童・教職員・保護者のよりスムーズな接続を実現していきたい。特に、不安をかかえる児童がいないかなど、全教職員で現状や課題を共有する。

不登校をはじめとする児童の生活指導上の課題解決にも取り組む。基礎学力の向上と児童の不登校の減少は密接に関係していると考えられ、不登校の原因として、学校に対するストレスや、学校における人間関係の問題も挙げられる。主体的・対話的な学びにより、児童同士の交流が増えることで、ストレスや人間関係の問題を軽減することが期待される。また、興味関心に合わせた学びが推進されることで、児童が学びたいと思うことに取り組める環境が整い、学校に対するモチベーションが高まり、不登校の改善につながることを期待される。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	子どもたち一人ひとりがより輝く「新しい学校」
★めざす子ども像	よく考えてやりぬく子 力を合わせてがんばる子 丈夫な体と豊かな心を持つ子
★めざす教師像	学ぶ意欲を引き出す教師 常に学び続ける教師

3 学校の現状（よさと課題）

（１）子どもたちの実態

本校は市内では最多の児童数と、非常に広い校区を擁する小学校となった。児童は総じて子どもらしく、明るく健やかな様子で過ごしている。しかしながらこれまで、学力向上のための取組の効果は全体的に上がりにくく、不登校などの生活指導上の課題が依然として解消しないという傾向が続いている。

（２）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境・・・校区全体において、子どもたちが明るく健やかに育つ環境がある。しかし一方で、厳しい家庭環境で育つ児童や、学校や関係機関で対応する必要がある家庭も存在する。

②地域・・・昔からの伝統のある地区を擁し、学校に協力的である。

③組織（教職員、ＰＴＡ、保護者）

・教職員は児童の指導に熱意があり、丁寧な学級づくりと学習指導に前向きに取り組む雰囲気がある。児童が授業に集中し、学習することができるよう、授業の進め方や教材の選定を工夫し、興味を持って学ぶことができるようにしてきた。また、児童が抱える問題や悩みに真摯に向き合い、解決のためのサポートを提供し、さらに、児童が自信を持って学ぶことができるように、彼らの長所や能力を引き出すための指導を心がけている。

・ＰＴＡも歴史と伝統を引き継ぎ、代々学校と連携してＰＴＡ活動を行ってきており、今も嚆小にはＰＴＡとは別に後援会が存在している。

・保護者は、学校に協力的な方が多い。最近ＰＴＡの在り方に多くの関心が寄せられ、本校保護者の中でも様々な意見がある中、現役員さんを中心に、子どもたちのために楽しい行事等を考えて、持続可能な活動を進めようと精力的に推進してくださる方は多い。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分１ 『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
学力の向上と、主体的に考え行動する「生きる力」をはぐくむ教育の推進	学力向上アンケート・学校教育自己診断・全国学力学習状況調査・NRT・全国運動能力調査 A「自分に合った本を選ぶことができますか」 B「理科・生活科で学習したことを普段の生活の中で使っていますか」 C「ICT 機器を活用することで、学習が楽しくなりましたか」 D「ICT 機器を活用することで、進んで学習するようになりましたか」 E「授業づくりでは、教科の目標を達成させるために必要な対話的な活動を取り入れることができますか」 F「支援教育の視点から、指導上の工夫を行いましたか」 G「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」 H「子どもは、自分の学級は楽しいと言っている」 I「子どもは、授業が分かりやすいと言っている」

B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
・学力向上の取組み	・ NRT 全国平均以上 ・ 全国学力学習状況調査全国平均以上 ・ AB 90%以上	全国平均より -4.2%（国語） -10.1%（算数） A 92.1% B 75.3%	学力テストの結果は目標に大きく及ばなかった。本校の課題はまだまだ基本的な学習事項にあることが考えられる。しかしながら、応用的な課題にも適応できる学力をつけることも同時に考えなければならない。
・ 主体的・対話的で深い学び	・ CDE 90%以上	C 81.3% D 68.9% E 88.2%	ICT の活用が児童の主体性や積極性につながるような工夫が必要。
・ 障がいのある子どもの自立支援	・ F 90%以上	F 100%	教師の意識付けはできている
・ 豊かな心の育成	・ GHI 90%以上	G 85% H 89% I 78%	さらに継続して子どもの自己肯定感や安心感を醸成していきたい
・ 体力向上と健康安全教育の推進	・ 全国運動能力調査 大阪府平均以上	達成した	

目標設定区分 2 『学校組織の運営』			
A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
学校の組織力の向上と安心安全の確保		学力向上アンケート・学校教育自己診断・校長の学校運営に関するシート	
		A「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか」	
		B「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」	
		C「子どもは、自分の学級は楽しいと言っている」	
		D「子どもは、授業が分かりやすいと言っている」	
		E「事故や問題事象の発生時に、組織的な対応ができるよう、危機管理体制を周知徹底している」	
		F「課題解決に向け、教職員が総体として動くよう、校長としてリーダーシップを発揮している」	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
・ 校内研修	・ A 90%以上	A 100%	達成できた
・ 生活指導	・ BCDEF 90%以上	B 85% C 89% D 78%	いずれも達成できなかった。引き続き、児童の自己肯定感を高め、前向きに登校できるようにしたい。

		E 72.7% F 68.2%	
・自然災害等に備えた体制の充実・防災教育の取組み・コロナ対策	・EF 90%以上	E 72.7% F 68.2%	校長のリーダーシップも職員から不足と思われており、反省している。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
教職員の資質能力の向上と人材育成		校長の学校運営に関するシート A「教員の授業力の向上をめざし、授業観察後の指導・助言を適切に行っている」 B「業務量の多い教職員への声かけを行うなど、仕事の一部に偏りすぎないように配慮し、業務の分配に努めている」 C「教職員が協力して、円滑に職務を進めるため、適切な指導・助言を行っている」 D「体罰、セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等のない、人権が尊重された学校環境づくりに努めている」	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
・教職員の組織的・継続的な人材育成	・A 90%以上	A 63.6%	授業観察は頻繁に行えたが、その後の指導助言が不十分だった。
・教職員の働き方改革	・BCD 90%以上	B 59.1% C 54.5% D 100%	教員の業務負担感・不公平感は大きい。それにこたえるリーダーシップが発揮できなかった。
・不祥事の防止	・D 90%以上	D 100%	達成できた

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
家庭・地域・学校の連携、協働の推進		学力向上アンケート・学校教育自己診断 A「学校の教育活動の内容や様子はよくわかる」 B「子どものことについて、気軽に学校に相談できる」 C「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」 D「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
・学校教育目標、めざす子ども像の共有	・AB 90%以上	A 79% B 79%	情報発信が不十分だったものと思われる。

・学校運営協議会の活性化	・会議で計画した活動を実行する	達成した	さらに地域と共同した取り組みを展開したい
・家庭教育支援の充実	・CD 「全くしない」をと もに 10%以下	C 12.5% D 33.3%	勉強も読書も、家庭でも行えるような取り組みが必要。

5 総合評価と次年度に向けて

評価指標に表れる課題は、学力の課題を中心としてなお多い。教職員の意識は高いことが見て取れることから、PDCA サイクルに載せて改善しながら継続して取り組みれば成果も現れるところはあると思われる。校長としてリーダーシップを発揮できていないこと、情報発信が不十分だったことは反省点である。

次年度、校内研修のテーマを非認知能力の育成とさだめ、今年度までの理科を通じた学力向上の取り組みから新たな視点で取り組む。基礎的な学習事項の習得ももちろん大切であるが、それらを含めて子どもたちの非認知能力の育成から、自己肯定感の醸成、主体的な学びへとつなげていきたい。